

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：アイン松本町保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：遠藤 裕司	定員（利用人数）： 68 名
所在地：〒221-0841 横浜市神奈川区松本町3-27-8	
TEL：045-314-4152	ホームページ： https://www.ein-group.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日： 2013年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：中央出版株式会社	
職員数	常勤職員：13 名 非常勤職員：5 名
専門職員	（専門職の名称）： 名
	保育士：16 名 栄養士：2 名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
	乳児室1室 調理室1室
	保育室5室 調理室1室
	医務室1室
	事務室1室 幼児用トイレ9個

③理念・基本方針

<理念>

みらいを生き抜く力を育てる（法人）

今の子どもたちが大人になる頃、多種多様な社会問題、環境変化を乗り越えないといけない時代です。子どもたちに挑戦する心、諦めない心感謝の心を持ち元気な大人になるための環境を提供します。アイン保育園は愛情を持った「共育」を実施し生きる力と夢を持った子どもを育てます。

<基本方針>

- 1.安心・安全を第一に考えます。
- 2.子どもと大人が共に学び、成長する。
- 3.利用者、地域のニーズに応える。
- 4.豊かな人間性を持った子どもを育成する。

④施設・事業所の特徴的な取組

<アイン松本町保育園の特徴的な取り組み>

私たち職員は未来を生きぬく力を育てるために、乳幼児期の大切な時期に保育士と子どもが丁寧に関われる環境を作っています。乳児期は育児を生活の軸とし食事、排泄、睡眠などで保育者と1対1の場面を作り、子どもたちの思いに共感し、応答し、愛着関係や

信頼関係が築けるよう関わっています。そうした関係性ができ、安心できる環境下で夢中になれることを一つでも多く見つけられるよう保育園生活では多くの種まきを出来たらと考えて保育をしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年8月28日（契約日） ～ 2021年2月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2015年度）

⑥総評

【アイン松本町保育園の保育方針】

●保育目標に「好きな遊びをみつけてお友達と楽しくいっぱい遊べる子ども」、「いろいろなものに興味をもち、意欲的に挑戦する子ども」、「思いやりの心をもった優しい子ども」とし、『自由保育』・『モンテッソーリ教育』・『共育』をコンセプトとして保育を推進しています。「自由保育」は、子どもたちが自分で考えて個々の興味・関心のある遊びを見つけて取り組むことで、自分で決める力や主体性が育ちます。「モンテッソーリ教育」は、全ての子どもは自分を伸ばす力（自己教育力）を持っているという考え方を基本にしています。大人は、子どもに何かを教えるのではなく、個々の子どものその時期の興味をよく見て、適切な環境を整えて援助をするのが役目とし、モンテッソーリ教育では各発達段階の子どもたちがやってみたいなと思える教具がたくさんあります。「共育」とは、子ども、保護者、地域の方々、保育士がお互いに助け合い、勉強しながら共に育っていくということです。これらをコンセプトにして保育の工夫と共に積極的に取り組んでいます。

◇特に評価の高い点

1. 【未来を生き抜く力を育てる保育の実施】

●アイン松本町保育園は、『自由保育』・『モンテッソーリ教育』・『共育』をコンセプトとした保育を推進しています。具体的な保育内容を今年度の指導計画で確認しました。5歳児クラスの保育姿勢は、「自分で考え・判断し、進んで取り組んでいけるような時間や機会を作り、活動できるように環境を整える。」としています。5歳児の保育日誌（10月）や保育士の戸外活動、昼食時、午睡時での記録からも確認することができ、子どもたちは、自己決定力や主体性、自分を伸ばす力が育まれています。この育まれた力を、保育所保育指針の「育みたい資質」・「能力の3本柱」と連動させ、豊かな感性から物事を感じ取り、身に付ける「知識及び技能の基礎」を培い、あらゆる発見・気づきを持って「思考力、判断力、表現力等の基礎」を築き、心情・意欲・態度が育つ中で、より良い生活を営もうとする「学ぶに向かう力、人間性等」につながっていくよう取り組んでいます。

2. 【体と心を育てる給食の提供】

●食べる力は生きる力です。アイン松本町保育園の食育のねらいは、『食べ物と体の関係に興味を持つ、友だちと一緒に食べる喜びを味わう。』としています。年間の食育計画は、1年をⅠ期～Ⅳ期に分けて行い、Ⅰ期のテーマは、「姿勢よく食べ、お皿を持ち、三角食べをする」、「気持ちよく食事をするためのマナーを身につける」、「食べ物に興味を持つことで、友だちや保育者と楽しく会話しながら食べる」、「バイキング形式の給食で適量を摂る」とし、クッキング実習等を通して習得しています。子どもたちは、Ⅳ期までの食育計画に沿って様々な調理器具を活用しながら楽しくクッキングを行い、三色食品群により食材の働きを学び、食事のマナーを身につけて行きます。苦手な食材もクッキングを通して、少しでも食べてみようという意欲につながった事例もあります。

日本文化に因んだ和食クッキングでは、箸の使用や和食への興味が広がりました。また、食育Ⅳ期のねらいでは、「食品を選ぶ力を養うこと」、「食に関わる全てのものに感謝の気持ちを持つこと」、「みんなと食べる楽しさを味わうこと」を身につけて行きます。園では、月1回、給食だよりを発行し、歳時記や食材の効用、副菜レシピ、食育豆知識等を紹介し、家庭での食育につなげています。11月号の給食だよりでは、「和食の日（11/24）」に因み、日本文化を掲載し、和食の基本と言われる一汁三菜や、宮城県の郷土料理「はっと汁」の説明や、「和食の日」の献立に用いられる食材の栄養等について伝えています。子どもたちは、美味しい手作り料理で生きる力を育み、自由保育で主体性を培って未来を逞しく生き抜く力を日々養っています。

◇改善を求められる点

1. 【保護者との情報共有をさらに密接に図り、保育に対する安心感・信頼を高める】
●アイン松本町保育園の子どもたちは、保育コンセプトの自由保育を受け入れ、主体性を持って未来を生き抜く力を育てており、その保育内容は保護者等に高い評価で支持されています。園の自己評価が低い項目の内、保育園と保護者との情報共有に関する内容が比較的多く挙げられます。その代表例として、（1）理念、基本方針の継続的な周知方法の必要性（2）利用者満足度において保護との認識の乖離が見られる（3）保護者への情報の伝達不足による相談・意見に対するICT化の促進等、さらに密接な情報交換のできる工夫が望まれます。子どもの生活を充実させるためにも家庭との連携は必須であり、現在の連絡帳等の他にビデオ記録、メール機能の拡張等、情報発信の一考を提案します。保育士の基本的な役割は家庭養育の不足を支援、補完することであり、親子の関係が円滑で愛情深いものになるよう手助けすることです。そのためには保育士自身も保護者・子どもとの信頼関係を築くことが重要です。現在、地域の子育ての中核を担う専門職として保育士の重要性も高まっています。保護者との関係構築を図る為にも、丁寧な対応や情報共有ツールの追加・工夫を行い、保育に対する安心感・信頼を高めていけることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：アイン松本町保育園

<評価に取り組んだ感想>

園長が代わり、初年度での第三者評価の受審で、アイン松本町保育園を一から学ぶ機会を作っていただき、良かったと思います。ヒアリングを行いながら、質問の意図に対して何を求められているか、そこに対しての答え方など、改めて学ぶことができました。

また、法人(中央出版株式会社)のアンケートとはまた異なり、第三者評価での利用者アンケートは園への意見として貴重なものとなりました。

今回、評価していただいた結果から、さらに良い保育園にするために、多くの助言をいただき、ありがとうございました。もう一歩でも保護者との関係を強くして、ファンになってもらえる努力をしていきたいと思いました。

お忙しい中、本当にありがとうございました。

＜評価後取り組んだ事として＞

1. 保護者に向けての発信方法を書面だけでなくICTの面から、メールを使用して重ねて伝えることを始めました。
2. 子どもの発達をさらに知り、適切な関わり、丁寧な観察、対応が行えるように、会議や昼礼などで共有、研修の場を設けています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり